

# 海洋システム科通信 8月号



## 海のため、命のため、学びのために

(海洋システム科 大野海岸清掃)



広田海水浴場で広田小学校の生徒さんたち、地元の方々と一緒に、ゴミや海藻、流木などを集める清掃活動を行った！その後は、地震による津波発生を想定した避難訓練も行った！



## “教える”という学び

(海洋システム科3年生 小学生体験実習)

小友小学校の生徒さんたちが来校し、かまぼこづくり、船の運転、ロープワークなどを体験した！高校生たちも教えながら、自分の知識や技術を深めた！



8月はマカジキが旬を迎える！  
マカジキは生食でも加熱しても美味しい高級魚だ！



昨年度の取組(前期)  
**高校3年生**

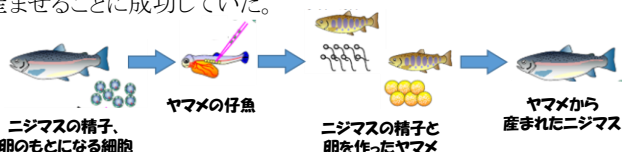


海洋システム科では、3年生から授業や実習の専門性がさらに増していく。昨年度は、学んだことを小学生に教えたり、校外での実習に生かして知識や技術をさらに深めたぞ！

## 先生の独り言 vol.5

### ～サバにマグロを産ませる～

昔、学会で衝撃的な研究発表を聞いた。「サバにマグロを産ませる」という発表だ。サバのお腹にマグロの卵や精子の元となる細胞(生殖細胞)を入れて、サバにマグロを産ませるのだという。そんなことが可能なのか？動物の体には、自分でないものが入り込んだ時、それを排除しようとする仕組み、拒絶反応が起こる。臓器移植された他者の内臓が、体になじまずに腐り落ちてしまうのはこのためである。この研究は、生まれたばかりの魚の体が拒絶反応を起こしにくいことを発見し、その特性を利用して、ヤマメにニジマスを産ませることに成功していた。



参考web:  
[http://olcr.kaiyodai.ac.jp/seeds/wp-content/uploads/2011/02/2010\\_kaiyodai\\_takeuchi\\_lock.pdf](http://olcr.kaiyodai.ac.jp/seeds/wp-content/uploads/2011/02/2010_kaiyodai_takeuchi_lock.pdf)

しかし、「サバにマグロを生ませる」ことに意味はあるのか？海のマグロの数は、「近い将来、食べられなくなる日が来る」と噂されるほど減少している。私たち人が長年にわたり獲り過ぎたのである。今後もマグロを食べ続けるためには、人の手で産みだしていかなければならないだろう。マグロを産みだす技術はすでに開発されている。しかし、マグロは体長3m 体重500kgになる大型の魚。しかも、子供を産めるようになるまで生まれてから3年以上かかる。マグロにマグロを産ませることは、大きな場所と長い時間が必要なのである。サバは最大長40cm 体重500gの魚で、わずか1年で子供を産めるようになる。つまり、サバがマグロを産めば、さらに効率よくマグロを増やすことができるのだ。

結論を言えば、サバはまだマグロを産んでいない。しかし、こうした研究の蓄積が、いつかサバにマグロを産ませ、私たちの食を支えることになるだろう。自然では起こりえない現象を可能にし、人とマグロの未来に大きな希望を感じさせたあの発表を今でも忘れられない。